

第2学年数学科 シラバス（学習案内）

教科の目標

○中学校数学科の目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- (2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- (3) 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。

○中学校2年生の数学科の目標

- (1) 文字を用いた式と連立二元一次方程式、平面図形と数学的な推論、一次関数、データの分布と確率などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- (2) 文字を用いて数量の関係や法則などを考察する力、数学的な推論の過程に着目し、図形の性質や関係を論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、複数の集団のデータの分布に着目し、その傾向を比較して読み取り批判的に考察して判断したり、不確定な事象の起こりやすさについて考察したりする力を養う。
- (3) 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度、多様な考えを認め、よりよく問題解決しようとする態度を養う。

本校ではこれらの目標を次の「評価の観点と方法」をもとに達成することを目指します。

評価の観点と方法

評価の観点	評価の方法
数学への関心・意欲・態度	○提出物（宿題を含む）○ノート○授業観察（授業態度等） ○挙手○自己評価等
数学的な見方や考え	○定期テスト○授業観察（授業中の考え・発表）等
数学的な技能	○定期テスト等
数量、図形などについての知識・理解	○定期テスト等

第 2 学年 数学科 学習計画

学期	月	学習内容 (時数)	学習のねらい
1 学 期	6	1章 式の計算 1節 式の計算	<ul style="list-style-type: none"> ・文字を用いた式の四則計算（加法・減法・乗法・除法の計算）ができるようにします。 ・事柄の中に数量の関係を見だし、それを文字を用いた式に表現し活用できることができるようにします。
	7	2節 文字式の利用 ・問題	
2 学 期	8	2章 連立方程式 1節 連立方程式	<ul style="list-style-type: none"> ・連立方程式について理解し、それを用いて具体的な問題を解決することができるようにします。
		2節 連立方程式の利用 ・問題	
	9	3章 一次関数 1節 一次関数とグラフ	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な事象の中から二つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べることを通して、一次関数について理解します。 ・関数関係を見だし、式・表・グラフに表現し、考え調べることができるようにします。 ・数学的な見方や考え方を深めます。
	10	2節 一次関数と方程式 3節 一次関数の利用 ・問題	
	11	4章 図形の調べ方 1節 平行と合同 2節 証明 ・問題	
		12	5章 図形の性質と証明 1節 三角形 2節 四角形 ・問題
3 学 期	1	6章 確率 1節 確率の意味 2節 確率の求め方 ・問題	
	2	7章箱ひげ図とデータの利用	<ul style="list-style-type: none"> ・箱ひげ図や四分位範囲などの必要性和意味を理解し、それらを用いてデータの傾向を知り、判断することができるようにします。 ・問題を解決するために、複数の箱ひげ図を比較して、データの傾向を批判的に考え、判断します。
	3		

◎学習計画は、実態に応じて変更することもあります